

愛情と信頼を礎に共存共栄 社会に好循環を生む商社

静岡県浜松市を拠点に置き、自動車用アルミホイールをはじめ多様な商品を取り扱う老舗商社・鈴興（株）。社長の鈴木博彦氏は創業当時から続く「人間尊重」「相互信頼」「共栄共存」の理念を守り、さらに独自の視点・哲学から日本社会全体の未来を考えた事業展開を行っている。社長の口から語られる熱い言葉を、俳優の名高達男さんが掘り下げていくインタビュー。

失明を乗り越え家業へ

名高 鈴興（株）さんは、創業 50 年以上の歴史をお持ちだそうですね。まずは沿革をお聞かせいただけますか？

鈴木 当社は私の祖父が 1950 年に立ち上げた日本初の自動車用アルミホイール製造会社、エンケイ（株）をルーツに持ち、商社機能を担う会社として 1970 年に設立されました。その後、アルミホイール、液化天然ガス（LNG）、液化石油ガス（LPG）など金属や燃料を中心に扱う商品を増やし、現在は工業用資材や LED 照明、家具・衣類に至るまで 1000 種類以上の品目をそろえております。

名高 それはすごいですね。品目の多さに商社としての確かな足跡を感じます。鈴木社長は、幼少期から老舗を継ぐことを考えていらしたのですか？

鈴木 いえ、実は 10 代の頃はサッカーに打ち込んでいて、15 歳で単身でブラジルへ渡りました。しかし、ユースチームに所属してプロ契約を目指していた矢先、右目に網膜剥離を発症し、帰国して 6 度の手術を行ったものの、その甲斐なく失明してしまって——そこでサッカーの道は閉ざされ、手術と失明のショックから精神疾患も患ってしまったんです。

名高 おつらい経験をされましたね。再起のきっかけは何だったのでしょうか？

鈴木 1 年ほど闘病生活を送り、少し良くなってきた頃、父が「ちょっとうちで働いてみないか」と声を掛けてくれたんです。父は私がブラジルへ行く際、会社に借金をしてまで夢を後押ししてくれました。これまで自分のわがママを許してくれた父の誘いを断るわけにはいかないと決意を固め、家業に入った次第です。そうして 2016 年に、父から事業を引き継ぎ代表取締役に就任しました。

理念は人間尊重・相互信頼・共栄共存

名高 まさに人生のどん底から這い上がってきた鈴木社長。事業に立ち向かうポリシーや鈴興（株）さんの社風について、ぜひ、詳しく教えてください。

鈴木 当社は、祖父の代から「人間尊重」「相互信頼」「共栄共存」の 3 つのポリシーを掲げています。事業というものは相手を尊重しなければ前に進みませんし、お互いの信頼も生まれませんよね。そして、この 2 つの条件を満たすことで、共栄共存ができるのです。どんなに時代が進もうと、この基本的な哲学は絶対に変えないようにしています。また、「お客様・

信用・社会貢献」の 3 つがそろって初めて事業が成り立つという、「客信社事」も重要な理念です。社風としては、給与・ボーナスをしっかり支払い、皆が安心して働ける環境を整えつつ、社員一人ひとりの個性を伸ばしていくことを重視しています。その一環として、大型自動車免許や危険物取扱者などの資格取得も積極的にサポートしているんですよ。

名高 会社で資格取得を後押ししてくださるというのは、スタッフさんにとってはスキルアップにつながりますしモチベーションが上がりそうですね。

鈴木 もちろん社内でも活躍してもらいたいという思いもあるのですが、仮に当社を離れて他の場所で働くことになったとしても、そこで通用するように資格を取ってほしいと私は考えています。人間同士のことですから、当社の社風が合わないというケースもあるでしょう。そうして辞めていく社員たちにも、路頭に迷うような思いはさせたくないですし、新天地で社会貢献をしてくれればいいと思うんです。

名高 会社を離れるスタッフさんのことまで考えていらっしゃるとは驚きました。鈴木社長の人情がうかがえます。

鈴木 当社は今、26 名体制で動いてお

鈴興 株式会社 代表取締役

鈴木博彦

Profile

プロサッカー選手を目指し 15 歳で単身ブラジルへ。しかし、右目を負傷し帰国。6 度にわたり手術するも回復せず失明し、サッカーの道を断念する。そのショックから一時は精神的に落ち込んでいたが、夢を支えてくれた父の言葉で再起し、鈴興（株）に入社。跡継ぎとして経験を積み、2016 年に 35 歳で代表取締役に就任した。

り、この規模だと社員のことはもちろん、その家族を含めた背景がすべて見えるんですよ。だから、どうしても皆に“情”が移ってしまう部分はありますし、大手企業のようにドライになろうとせず、私はそうした“情”の部分を大事にしたいと考えています。

「今」と一生懸命に向き合う

名高 鈴木社長は、商社の経営者として日々移り変わる情勢を最前線で感じていらっしゃると思います。コロナ禍を含め、今の激動の時代についてどのように考えていらっしゃるのでしょうか？

鈴木 名高さんがおっしゃる通り、今はさまざまな状況が秒単位で変わるような世の中になりました。明日がどうなっているかも見えない——そんな中で私が心掛けているのは、景気の動向や情勢の変化に対して一喜一憂しないことです。時代の流れに合わせて柔軟な姿勢で自分の役割を全うし、今、目の前にある仕事を一生懸命にこなしていくことが、結果的

に事業を成長させる一番の近道になると思っています。

名高 なるほど。時代に即した柔軟性と、おれない信念、その両方を持っていることが重要になってくる、と。

鈴木 はい。例えば近年はEC業界が急速に成長しており、同じ商品を安く出品されると商社にとっては厳しい状況になるのですが、当社は品質を低下させることなく納品のスピードを高めることで、

「勝った、負けたではなく、愛情と信頼によって世の中を丸く循環させることが大切」

取引先企業様との信頼関係を維持しています。一貫した製品・サービスを提供する工夫を随所で行っているため、品質面では絶対の自信があるんです。

愛情と信頼を大切に歩む

名高 ここまでお話を伺っていて、鈴木社長が事業における人との縁やつながり

をいかに大切にしていращやるかが伝わってきます。その辺りの哲学についてお聞きしてもよろしいですか？

鈴木 私は、すべての物事を進めるうえで最も重要なのは「愛情」と「信頼」であると思っています。そして、それらは人と人とのコミュニケーションの中で育まれていくものです。しかし近年、デジタル化が進み過ぎたためかそのコミュニケーションが希薄になり、「何でも白黒

つけすぎではないか」という違和感を覚えることも増えてきました。例えば、コロナ禍によって増えたりモートワークやリモート会議。これらはデジタルの進歩で実現した便利なツールですが、

急激にそれを推進したことによって多くの人からコミュニケーション能力が失われていっていると感じます。また、YouTubeなどの動画サイトでは各分野専門家が有用な情報を発信されていて、以前より簡単に知識を得られえるようになった一方、知り過ぎることによってアクションを起こす腰が重くなっているようです。「結婚や出産はリスクがあるからしなくていい」という考え方が広まりつつあるのもその影響だと思います。

名高 何事も極端になり過ぎていているという点について、鈴木社長は危機感を抱いていらっしゃるんですね。

鈴木 はい。ビジネスにおいても「勝ち組・負け組」という言葉を気にしている人をよく見かけますが、本来世の中は丸く循環させるべきものであり、誰が勝った、負けたではなく、皆でうまく回していけばよいのです。私が主に携わっている自動車業界では今、「ガソリン車が電気自動車か」という議論が展開されています。しかし、それもどちらかに傾けばよいという話ではありません。自動車は約3万点のパーツでできていて、その

鈴興 株式会社

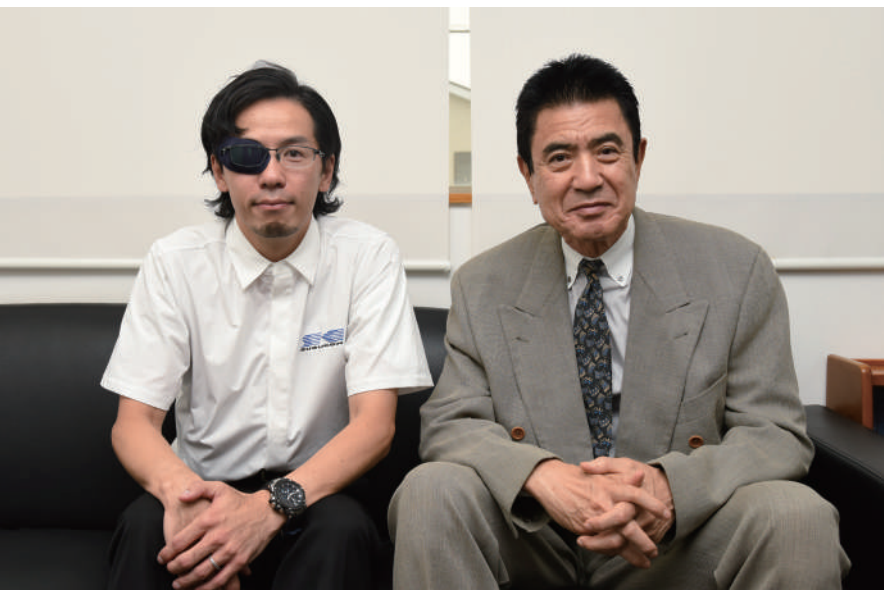
〒433-8111
静岡県浜松市中区葵西 2-5-15
URL <http://suzukoh-970.co.jp/>

Company Data

背景には同じ数の企業と、社員たちがいる——電気自動車が普及しようと、その人たちの雇用は守られなければならないですし、そうしたところに考えを巡らせるのが「愛情」だと思うんです。

名高 鈴木社長の温かみのある感性にはとても共感します。そのように物事を広い視野で見られる資質は、どのようにして磨かれたのでしょうか？

鈴木 10代の時にブラジルで生活したことが、自分の中では大きな財産になったと思っています。日本と比べてずっと貧しく不便な環境で試行錯誤をしてきた経験があるからこそ、豊かになりすぎるものの危険性というか、それによって見えなくなるものがあることに気が付けるのではないかな、と。デジタル化もその中の1つで、例えば電波が飛び交いすぎると、それまで聞こえていた生き物の声、地球の声、万物の声が聞き取りにくくなると思うんですよ。そういうところに一



人ひとりが意識を傾け、先祖が愛情と信頼を積み重ねて築いてきた文化を大切にすれば、世の中はもっと平和でより良い方向へ進んでいくと信じています。

名高 デジタルネイティブと呼ばれる若い世代の人たちにも、鈴木社長のそうした考え方は伝えていってほしいです。

鈴木 そうですね。今の子どもたちはコミュニケーションがデジタル端末越しになるのが当たり前で、そのうえコロナ禍で常時マスクをしているため思うように言葉を発することも難しい状況にあります。だからこそ、面と向かって言葉を交わし、愛情・信頼を育む時間を大切にしてもらいたいですね。また、現実思考に

なりすぎず、夢に向かってどん欲に生きてもらいたいと思います。

名高 これからも、鈴木社長が事業を通してご自身の哲学を体現していかれることを期待しています。最後に会社としてのビジョンもお聞かせください。

鈴木 ありがとうございます。これからの日本は、自動車業界のみならず製造業全体を盛り上げていく必要があると思います。その中で当社は、今後も日本のものづくりを大事にしながら、製造業の方々の背中を押し、商社として消費者との橋渡しをすることに尽力するつもりです。その中で愛情と信頼の大切さを伝えられれば、それ以上の理想はありません。



Guest Comment>>

名高 達男（俳優）

右目の視力とサッカー選手の夢を同時に失いながらも、再び立ち上がられて世の中のために奮闘されている鈴木社長。想像もつかない苦労を経験される中で、他者への深い愛情を育んできたことがよく伝わってきました。今、お金儲けのことだけを考えて動く人も多い中、社員の将来、お客さんの幸せ、そして日本や地球の未来のことまで見据えて事業を展開されている社長の存在は本当に貴重だと思いますし、さまざまな物事が転換する時代だからこそ、社長の力で世の中を明るくしていただきたいですね。